

「看護医療基礎」

5月23日 聴覚障がい者の方のお話を聞く

●視覚障がい者について学ぶことができた。今現在、世の中はバリアフリーなど障がい者に優しい世界になって



きた。だが、昔はそうではなかった。エレベーターに点字など今となっては普通のことが、10年ほど前はないところも多かった。今は、昔に比べ過ぎやすくなってきた。例えば、さまざまな情報がすぐに伝わるようになったり、音声付きのものが増え見えなくても耳で理解することができやすくなった。しかし、目が見えないため耳で物事を判断するにあたり、人混みに行った場合、雑音で自分の居場所がわからなくなったり、ぶつかる危険性が高くなる。そこで私は、信号を渡る時、どのようにして青信号だと判断するのか疑問に思った。Mさんによると、目が見えない人は周りにいる人の気配で判断するとおっしゃっていた。しかし、その人が信号無視をした場合、青信号だと勘違いをし、信号を渡り事故が

起こる可能性が非常に高くなると考えた。そのような事故を減らすために、自分自身注意を払って行動していこうと思えた。たとえ目が見えないからといって、何もできないわけではない。編み物をしたり、折り紙をしたりなど、手を有効的に使ってなにかにチャレンジしていくことが大切。スポーツをするときでも球技の場合、ボールの中に鈴を入れるなど少しのことでも工夫をすることで、できることが増える。これらのことから、見えるから良い、見えないからダメという世界をなくしていくために、さまざまな工夫がされているんだと改めて学ぶことができた。

●小学生5年生の時に視覚障がい者の気持ちを知ろうでアイマスクと白杖を使って学校を一周しようという講義を受けたことがありました。その時は慣れた学校だったから大体ここに何があるかわかっていただけ、今回Mさんのお話を聞いて驚いたことが空気感で壁があると分かるとおっしゃっていたのがすごく驚きました。自分たちは見るということで判断することが多いですが、Mさんは手で触れ、耳で聞いて物事を理解できる人たちなのではないかと思いました。今の社会は、生きやすい社会になったのと同時に生きにくい社会になったとお話を聞いて、そのように思いました。例えば、生きやすい社会は音声付きのものが増えたり。点字のものが増えたりしています。しかし、その反対に生きにくい社会では例えば、最近では点字が読めない視覚障がい者が増えているので点字が増える分、読めない人にとっては大変なことだということです。また、音が大きいということです。店の音楽が大音量で流れているのが多くなってきている社会。視覚障がい者にとって聞く、触るのが重要なかで



聞くというのが聞き取れにくい社会はとても生きにくいのだと思いました。そんな中でも最近では視覚障がいのドラマやオリンピックなどが行われていました。自分は観ていたその1人です。自分は、ただ観るだけではなくたくさんの人に考えてほしい、優しくなってほしい。そんな社会になってほしいと思いました。点字ブロックの上に自転車や障害物を置かないもし、迷っていたら優しく声を掛ける、スマホ歩きをしないなどそういった小さなことを自分たちで少しずつ変えていきたいし、そういう日本に変わってほしいと思いました。

